

# 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標(と活動計画)		評価	学校関係者の意見	
I 思考力や判断力を養うとともに、自主的・主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。	《全校レベル》 生徒自身が考え判断し実践できることをめざし、また、意欲的に学習に取り組む習慣を確立できるような学習指導の工夫や授業改善に取り組む。 《下位組織レベル》 ①年間2回の相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋げるとともに、提出を徹底させる。 [看護科] ③自主的学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的な目標を持たせるため、各テストを計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。[教務課、各教科担任、HR担任] ⑤家庭学習を充実させるため、予習・復習を必要とする授業展開や指導方法を工夫する。 [全教員]	評価指標	評価		生徒の主体的な学習を促進するために、アクティブラーニングやICTといった最新の教授方法を取り入れ、成果を上げている点は高く評価できる。生徒が卒業後も日進月歩の医療の現場で活躍し続けるには、自ら学び続ける能力を身につける必要があり、アクティブラーニングの効果は、5年間の学力の向上だけでなく、生涯に及ぶと期待できる。しかし、生徒の主体性を尊重するため、一方向の講義とは異なり、成績の乖離(個人差)が起こることは自明である。成績不振の生徒には、意欲的に学修に取り組めるように精神的な支援も含めた個別的な指導が必要ではないか。	
		①相互授業参観週間を年2回実施し、評価に基づいた授業改善を行う。	相互授業参観週間を6月と9月に実施した。参観者と授業者が意見交換を行い、授業改善に繋がっている。看護臨地実習期間と重なり、参観が困難な面もある。	B		総合評価 (評定)  B
		②週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を各学期1回以上設定する。	1回～3回の調べ学習を取り入れ、発表させたり、授業展開に活用できている。	A		
		③授業評価で「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上	「家庭学習(予習復習・課題)ができた」は64.9%であった。	C		(所見)  ほとんどの生徒が真面目に学習に取り組んでいる。教員はアクティブラーニングの手法を取り入れ、主体的な学習活動ができるよう工夫している。
		④学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を変えて次年度の学習への取り組みや、学校生活について面談を行う。	学期末ごと毎に成績不振者及び看護科目成績不振者は本人と保護者、担任、学年主任で面談を行っている。学年末も実施する。	A		
		⑤専攻科において、実習後の振り返りを行い、思考判断能力の向上が見られる。	専攻科2年生の臨地実習の振り返りを行うとともに学習成果をまとめ、校内看護研究発表会で各自が発表し、思考判断能力の向上が見られた。	A		自主的・主体的な学習の習慣化を図るため、問題演習の時間を増やす等の工夫を行っている。
		活動計画	活動計画の実施状況			自主的・主体的な学習の習慣化を図るため、問題演習の時間を増やす等の工夫を行っている。
		自主的・主体的な学習の習慣化を図り、授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。	グループワークやディベート等、アクティブラーニングの手法を取り入れ、自主的・主体的な学習により思考力の育成を図った。ICTを用いて効果的な授業展開や看護技術の習得を実践している。防災教育、成人看護、精神科看護の外部講師による講演・講義を行った。			自主的・主体的な学習習慣は個人差が見られ、家庭学習の時間にも表れている。
		①授業形態を工夫し、説明・発問・グループワーク等形態に変化をもたせる。	成績不振者には個別に課題やレポートを提出させたり、学習方法等のアドバイスを実施している。			
		・授業に情報通信機器を積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。	2回の課題テストにおいて各教科60点に満たない生徒は補充学習を実施した。専攻科では学生が自主的に放課後学習を行っている。			
②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い、個々に応じたアドバイスや指導を行う。						
③課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行い、学力の向上を図る。						